

1 佐井村海峡ミュージアム



本州最北の博物館。入口には元禄9年(1696年)から伝わる同村の箭根森八幡宮例大祭で使われる山車の模型を展示。この他に、同村の遺跡より出土した土器・石器等の遺物、江戸時代に北国廻船や中国(清朝)より山丹交易によりもたらされた交易品などが展示されています。特に蝦夷錦と呼ばれる中国(清朝)の古官服などの絹製品や青玉は興味深いものです。また、同村の名誉村民で赤十字の心に生きた医師三上剛太郎の特別展も行われています。



2 長福寺



古佐井地区に四つある寺院のうちの一つで、慶長七年(1612年)開山の曹洞宗の寺。長福寺には、敷地にある三門に鐘楼、仏舎利塔、金比羅堂、虹梁のほか、不動明王像、観世音菩薩をはじめとして多数の仏像など收藏されています。なかでも、円空上人の作とされる「木彫十一面観音立像」は、高さが約180cmあり、全国にある円空仏のなかでも第二位の高さを誇ります。

3 常信寺



正式名称は「亀鏡山・発信寺」というお寺です。1660年(万治3年)に開山され、盛岡・大泉寺の末寺となっています。村民には「浄土寺」と呼ばれています。

4 発信寺



正式名称は「大法山・常信寺」といい、「法華宗」の中の「本門流」のお寺です。1661年(寛文元)に開山されました。村民には「法華寺」と呼ばれています。

5 法性寺



正式名称は「松寿山・法性寺」というお寺です。1681年(天和3年)に開山されたとなっています。村民には、「門徒寺」と呼ばれています。

6 箭根森八幡宮

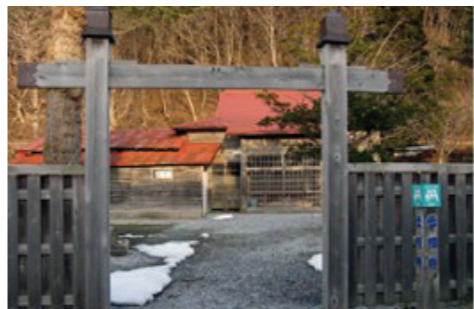


古佐井地区と大佐井地区を分ける小高い丘の上に、通称「八幡さま」として鎮座しているのが箭根森八幡宮です。創建年月は不明ですが、元禄9年(1696年)に南部藩田名部代官所に神輿渡御執行を願っていることから、それ以前より存在したと推測されます。境内には縄文時代の遺跡があり、箭根石(矢じり)や土器などが多く出土し、アルサス2階の海峡ミュージアムで出土品をご覧ください。



毎年9月14~16日の箭根森八幡宮例大祭は、元禄九年(1696年)に始まったとされ、北前船の影響から京都祇園祭の名残を残す盛大な秋祭りです。

7 伝相寺



ここは時宗のお寺で、本山は相模国(神奈川県)藤沢にある「藤沢山無量光院清浄光寺」となります。1699年(元禄12年)、了鐘という方が開山したと伝えられています。現在、東北地方には時宗寺院が61か寺ありますが、その内、青森県には伝相寺の一寺だけです。

8 三上剛太郎生家



日露戦争で多くの命を救った医師・三上剛太郎の生まれ育った家を展示館として開放しています。三上剛太郎は、明治38年(1905年)の日露戦争時に軍医として満州へ渡りました。

飯包帯所で負傷兵の手当をしていたとき、ロシア兵に囲まれ全滅の危機に瀕した剛太郎は、ジュネーブ条約に基づく赤十字の精神に従い「手縫いの赤十字旗」を包帯所に掲げ、それを見たロシア兵は攻撃の手を止めたと言われています。そして敵味方問わず多くの兵士を救った剛太郎の功績をたたえ、生家を保存し、展示館としました。晩年は佐井村の村医として村人に慕われた剛太郎が導入した、当時としては貴重なドイツ製レントゲン装置をはじめとする医療機器なども展示されています。

9 歌舞伎の館

【福浦の歌舞伎】



漁師によって100年以上受け継がれてきた、全国的にも珍しい漁村歌舞伎が佐井村にあり、県無形民俗文化財に指定されています。明治時代に、上方の歌舞伎役者であった中村菊五郎とその妻が福浦を訪れた際、地元の人々に歌舞伎を教えたのが始まりとされています。福浦の歌舞伎は、昭和63年には伝承100周年を迎えました。これを機に「歌舞伎の里」づくりが進められ、建設されたのが「歌舞伎の館」です。300人収容の観劇スペースや、歌舞伎を鑑賞できる映像設備、これまで伝承されてきた貴重な道具等の展示コーナーがあり、福浦の歌舞伎の魅力を味わうことができます。



10 仏ヶ浦



白緑色の凝灰岩が約2kmにわたって連なる岩の数々。長い年月をかけて風雨に洗われてきた自然美は、実際に目にするとそのスケールに圧倒される。如来の首、五百羅漢、一つ岩、観音岩、極楽浜など、仏にちなんだ名前がそれぞれつけられ、夏は穏やかに、冬は厳しくたたずんで、極楽浄土を思わせる。



11 牛滝神明宮

「新撰陸奥国誌」には、正徳6年(1716)の棟札があったと記されている。例大祭は新暦8月16日で、地区住民による神事が行われ、若者組による神楽御輿の地区巡行と各所で行う獅子舞の門打ちが祭礼の中心となる。

【伝統行事オコモリ】

毎年12月15日と1月15日に行われ、老若を問わず地区の住人数十名が参加し、「めしっ、めしー」「しるっ、しるー」と絶叫しながら、ひたすら御飯やすまし汁などを食べ続ける奇習である。

12 真如庵

佐井長福寺(曹洞宗)の末庵で、田名部海辺三十三観音霊場の28番札所。

13 縫道石山・縫道石の特殊植物群落



縫道石山(標高626m)と7km南にある縫道石(標高591m)は下北半島の西岸に位置して、津軽海峡と平館海峡に面した岩山である。昭和31年(1956)に、この山頂付近の岩場で発見されたイワタケが、北アメリカ東岸にあるものと、同じものであることがわかり、オオウラボシイワタケ(地衣類イワタケ科)と命名された。日本では縫道石山と縫道石だけにしか発見されていない。また、植物では低い標高にもかかわらず、ミネヤナギ、ミヤマザクラ、ホザキナカマド、コメツツジ、ミヤマダイコンソウ、イワキンバイ等の北方系の植物が自生しているため、これらを含めて特殊植物群落として国の天然記念物に指定されている。